

(議会説明資料)

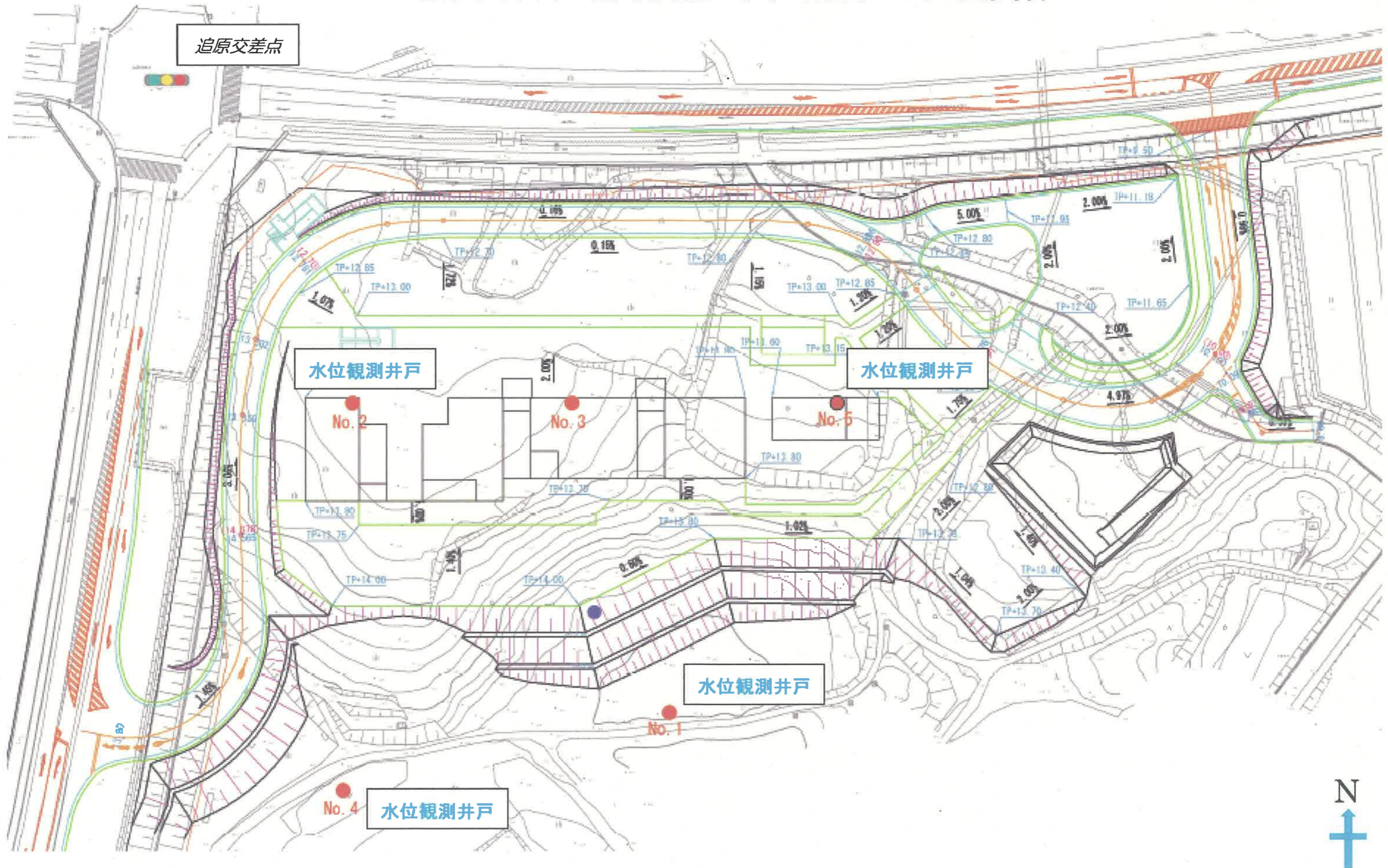
道の駅整備事業に関する湧水対策の検討結果について

平成30年12月5日(水)

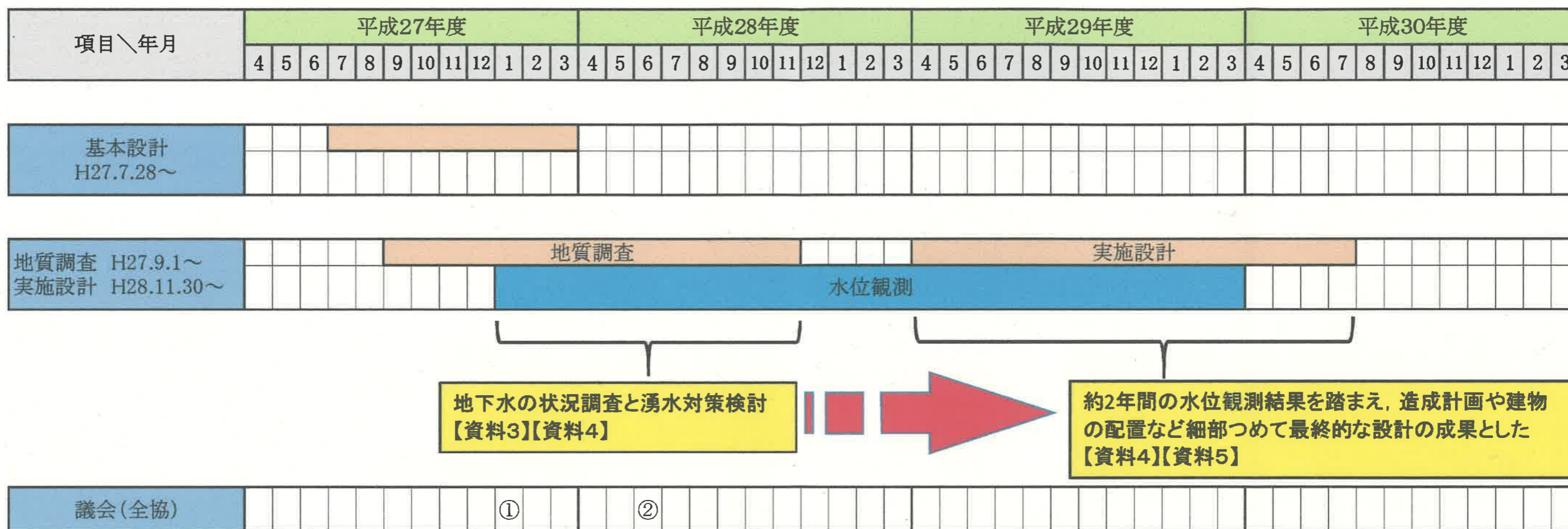
町長公室 政策秘書課

地形図及び地質調査(水位観測)の位置関係

【資料1】



湧水対策に関する業務経過



- ① 全員協議会(1/20) : 丘陵部の掘削による湧水の影響が懸念されるため、予定していた開業までのスケジュールを1年延期(H31開業→H32開業)し地下水の状況を十分調査する
- ② 全員協議会(6/6) : 事業費のコストダウンを図るため、造成区域の縮小(3.3ha⇒2.6ha)

造成計画高と水位の検討

【資料 3】

	計画断面イメージ (NO. 2-NO. 4)	説明	
CASE1 法尻計画高 TP+12.0		概要	<ul style="list-style-type: none"> 原計画案 国道側地盤高を基準に設定
		湧水 △	<ul style="list-style-type: none"> 湧水リスクが最も大きく、サービスヤード（建物裏の搬入エリア）の縮小が必要 湧水対策工が増大し、経済性に劣る
		残土 △	<ul style="list-style-type: none"> 残土量が最も多く、経済性に劣る
		アクセス ◎	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化が図りやすく国道から施設へのアクセス性が高い
CASE2 法尻計画高 TP+13.0		概要	<ul style="list-style-type: none"> 原計画より1m上げ 滞水層を保全し湧水リスクを軽減
		湧水 ○	<ul style="list-style-type: none"> 湧水リスクは比較的小さい
		残土 ○	<ul style="list-style-type: none"> 残土量の抑制に比較的良好
		アクセス ○	<ul style="list-style-type: none"> 国道に対して高低差（約1m）ができるため、スロープの設置が必要となるなど、利便性がやや劣る
CASE3 法尻計画高 TP+14.0		概要	<ul style="list-style-type: none"> 原計画より2m上げ 滞水層を保全し湧水リスクを軽減
		湧水 ◎	<ul style="list-style-type: none"> 湧水リスクは最も小さい 湧水対策工が軽減され、経済性に優れる
		残土 ◎	<ul style="list-style-type: none"> 残土量が最も少なく、経済性に優れる
		アクセス △	<ul style="list-style-type: none"> 国道に対して高低差（約2m）ができるため、スロープの設置が必要となるなど、利便性が劣る

基本設計の方針⇒法尻部地盤高を **TP+14.0m** としつつ、国道側の地盤を極力低くし、湧水リスク、経済性のバランスを図る。（実施設計により微修正あり）

工法検討と実施設計の成果

基本設計・地質調査（水位観測）における工法検討

	第1案 めっきかご枠	第2案 連続繊維補強土	第3案 井桁擁壁
写真			
断面図			

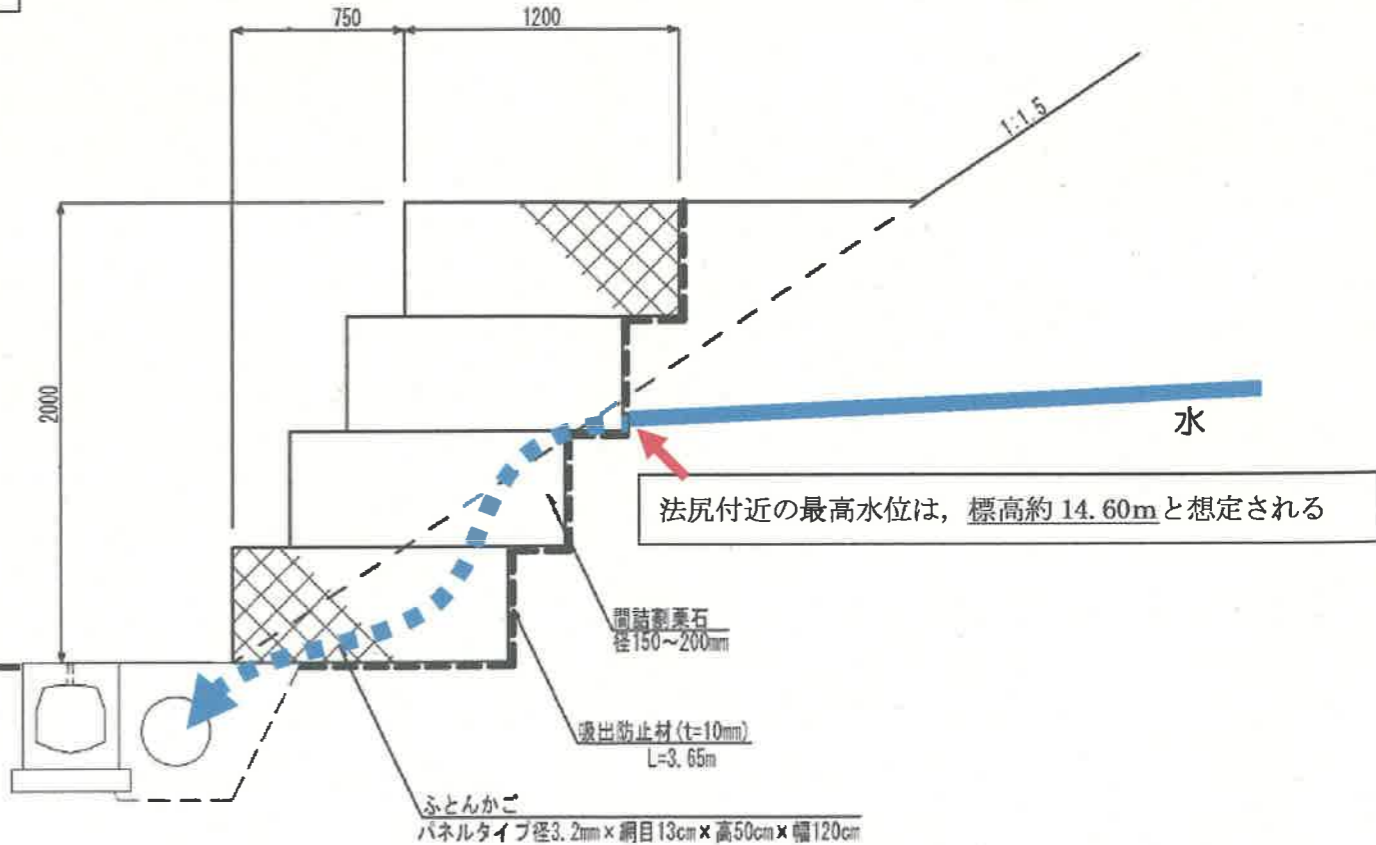
実施設計（水位観測）における設計概要

法尻かご枠工
階段式（4段） S=1/30

切土法面中に地下水位のある本検討箇所においては、透水性が求められる。透水性については第1案と第3案が望ましい、さらに現場に対応した追従性・柔軟性においても第1案がベストでかつ経済性にも優れる。

NO. 2 - NO. 4 断面の法下の地盤高を全体的な造成計画から総合的に判断し、標高 13.50m とした

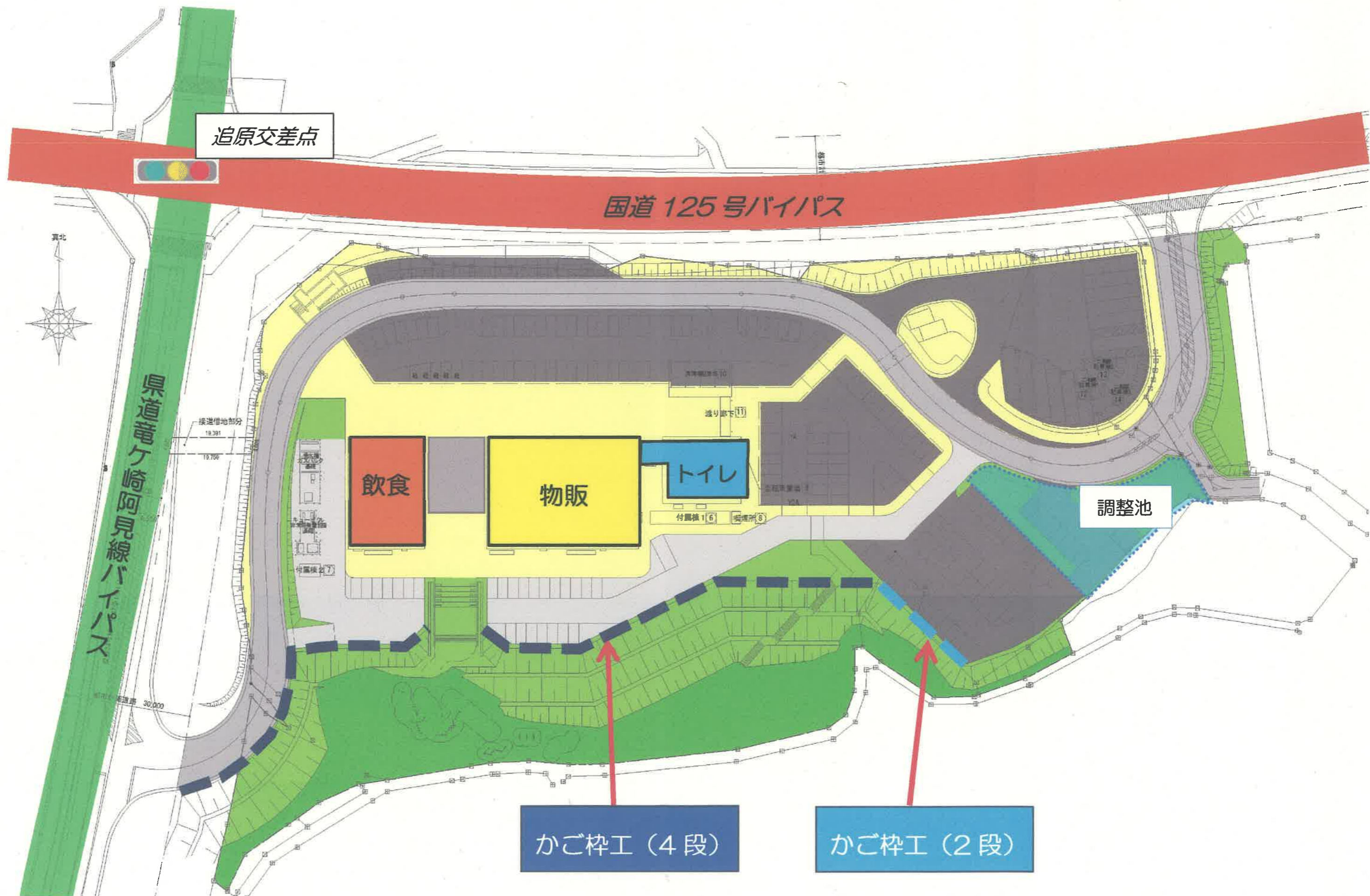
標高 15.50m
最高水位より約 1.00m 余裕をもった施工



法尻付近の最高水位は、標高約 14.60m と想定される

実施設計における湧水対策(かご枠工)平面図

【資料5】



かご枠使用事例



説明に対する質疑応答記録（概要）

H30.12.5

- 議員【A】 土地を買収したのはいつだったのか。
- 職員【A】 平成 29 年度の予算で買収している。時期としては、H29.4 月半ばから H30.1 月上旬にかけてである。
- 議員【A】 水が出ることはいつ時点で把握したのか。
- 職員【A】 基本計画を策定して、場所を 4ヶ所から 1ヶ所に選定する段階では、H21~H22 の県道工事の状況を把握していたので、この場所におけるデメリットの一つとして承知していた。
- 議員【A】 県道の工事状況をみて、水の対策工事が大変なことになるとは思わなかったのか。
- 職員【A】 基本計画の中で、当時の担当者から話を聞くことができた。最終的には 1880 万円という金額になり、これが高いか安いかということは申し上げにくいですが、十分なデータを集めれば対処できると考えていた。
- 議員【A】 H27 年度 1 月 20 日の全員協議会で 1 年間延期すると説明した時点で、これは大変な問題になるとは思わなかったのか。
- 職員【A】 データが少ない中で進めていくと工事費がかかる可能性があるということで、1 年間データを取って水位観測を続けて、それを設計に反映することで工事費を抑制する必要があると考えていた。
- 議員【A】 事業区域を 2.6ha へ縮小したのは、水が出るからこうしたということはないのか。
- 職員【A】 水が出ることは当初から承知していた。将来県道が 4 車線化すると中央分離帯ができるので、中央分離帯を切って信号処理をするとすると、交差点からの隔離を取る必要がある。そうすると造成区域が大きくなってしまうので、その部分を抑制するために、まずはこの形でということで、区域を縮小した。水については、区域が縮小するのでリスクが減るという事は事実です。

- 議員 [A] 県道が4車線化することは最初から把握していなかったのか。
- 職員 [A] 把握していた。理想は4車線化を見据えた形として3.3haの区域でお示しした。しかし、全体の事業費を抑制したいという考えもあったので、最終的にはこの形で収めている。
- 議員 [A] 最初から4車線になることが分かっていたながら途中でこうしたというのはおかしいのではないか。
- 職員 [A] 4車線化を見据えれば、交差点からの離隔を取り信号処理する形が理想だとは思いますが、無尽蔵に事業費をかけていいという訳でもないのです、やむなく縮小する形になった。
- 議員 [B] 我々は、途中から湧水問題が分かって、総額20億円の中から湧水対策費を捻出するために区域を縮小したと理解していた。そうではなくて、最初から水の問題は分かっていた、県道が4車線化することも分かっていた。その上で20億円の枠でやるつもりでいた。それなのになぜ途中で区域を縮小したのか。
- 職員 [B] H27までは企画部門で担当し、H28から町長公室の方で進めてきている。H27年度1月の全協で説明する前に、庁内の各専門部を集めて道の駅について検討した。当時の計画は、国体に間に合わせるために、H27年度に基本設計を行い、間髪入れずにH28年度に実施設計を行うという計画であった。水が出ることは分かっている中で、道路ができたことでそれほどではないだろうという考えはあったが、それにしても十分なデータを取らずに実施設計に入るということは、それはないだろうということで、実施設計を1年延ばしてデータをとることにした。また、20億円という上限はH28になってから設定したものであり、上限を決める中で基本設計の見直しを行った。国道と県道2箇所も信号処理が必要かという議論があり、また県道の4車線化は千葉茨城道路になり、霞ヶ浦に橋が架かった状況の交通量を想定した場合の4車線化だったので、相当先の話だろうということで、県道側の信号処理までは必要ないだろうという判断で、面積の変更をした。新しく道の駅整備推進室ができて、技術職の職員が入った中で、庁内のプロジェクトチームの意見を聞きながら、こういった形に落ち着いた。
- 議員 [B] 当時は湧水対策に3000万円ほどを想定していると聞いていた。3000万円で収まらなければ、20億円という条件があるので、建物を減らしてでも水の処理をすると聞いた。この場所は県道工事で水が出ると分かっていた、また南平台を造成した時も大変な工事になったことが分かっていた。水の問題があると分か

っていないながらこの場所を選んだのはなぜか。

職員【B】 県道工事のときは、全く処理をしなかったがために路床が流され、大変なことになった。しかし結局、法面の処理はせずに釜場で水を集めて排水する程度の処理で済んでいる。道路が通ったことで台地もなくなったので、水もそれほどお金をかけずに処理できるのではと思っていた。かご粹工法についても、北関東自動車道の茨城東ICから友部JCTまで2.5kmの区間で相当な大規模工事でやっているのだから、私どもとしては、それほどまではかからないだろうという認識でいた。

議員【C】 今日の資料は以前にももらったものか。

職員【B】 湧水に特化した資料は、今まで出していませんでした。

議員【C】 もっと早くこの資料をもらって説明してくれていれば、我々も場所について別の判断ができたのではないかと。我々は、執行部が作ったものに対して承認しているだけの状態になっている。今日の説明が、検証委員会の判断材料の一つとなればよいと思う。

議員【A】 今日のこの資料は、最短でいつ出せたのか。

職員【A】 施工費まで含めた資料となると、実施設計が納品されたH30.7月末以降でなければ出せなかった。

議員【A】 施工費以外の途中経過、水の状況であればもっと早く出せたのではないかと。

職員【C】 途中の検討過程であれば示すことができた部分もあるかと思う。機を逸してしまったことは、問題であったと認識している。

議員【A】 そこは十分認識してほしい。それによって我々の判断が変わってきたのだから。早く資料を出してくれることが大事だ。

職員【C】 その点も含めて、検証委員会の方で充分検証していきたい。

議員【C】 最後に、選挙直前の1月に駆け込みで土地を取得していることも大きな問題であることは指摘しておく。

以上